

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは、だんごを目かごに入れて道を歩いていました。すると、道ばたにおかしな穴があったので、おじいさんは、

「こりゃあ、おもしろい穴があったぞ。いっちょ、だんごを入れてみよう」といって、だんごをひとつ、穴に入れました。すると、だんごは、

だんごころりん だごころりん  
すつてんとーん

といいながら、穴の中に落ちていきました。おじいさんは、

「こりゃあ、おもしろい。もういっちょ入れてみよう」といって、だんごをもうひとつ、穴の中に入れました。すると、また、

だんごころりん だごころりん  
すつてんとーん

といって落ちていきました。あんまりおもしろいので、おじいさんは、だんごをつぎかつきへと穴に入れました。

だんごころりん だごころりん  
すつてんとーん

とうとう、おじいさんは、だんごをぜんぶ穴に入れてしまいました。そこでこんどは、目かごを穴に入れました。すると、目かごは、

目かごころりん かごころりん  
すつてんとーん

といって落ちていきました。しまいには、おじいさんが、

じいさんころりん じいころりん  
すつてんとーん

といいながら、穴の中に入っていきました。

穴の底に着いて、おじいさんが、あたりを見まわすと、ねずみがいっぱいいました。ねずみたちは、かわるがわるおじいさんの前に来て、

「おじいさん、先ほどは、だんごをありがとうございます。甘うございました」とお礼をいきました。

そして、ねずみたちは、お酒やさかなや、おいしいものを山のようにならべてごちそうしてくれました。それから、歌を歌いながら、踊りを踊って見せてくれました。

ねずみの浄土は 猫さえおらねば  
ねずみの浄土は 猫さえおらねば

おじいさんは、おみやげに、宝物をどっさりもらって大喜びで帰っていきました。そして、おばあさんにねずみの穴の話をしました。

すると、となりの欲ばりばあさんが、こっそり話を聞いていて、

「うちも宝物をもらおう」と思って、いそいで家に帰りました。そして、だんごを作って、自分のうちのおじいさんにいました。

「おじいさん、おじいさん。おまえもとなりのおじいさんみたいに、ねずみから宝物をどつさりもらっておいでよ」

となりのおじいさんは、目かごにだんごを入れて出かけていきました。そして、道ばたの穴にだんごをひとつ入れました。すると、だんごは、

だんごころりん だごころりん

すつてんとーん

といって、穴の中に落ちていきました。おじいさんは持つてきただんごをつぎつぎに穴の中に入れて、目かごも穴に入れました。しまいに自分も、

じいさんころりん じいころりーん

すつてんとーん

といいながら穴に入っていきました。

おじいさんが、あたりを見まわすと、ねずみがいっぱいいました。ねずみたちは、かわるがわるおじいさんの前に来て、

「おじいさん、先ほどは、だんごをありがとうございます。甘うございました」とお礼をいいました。

そして、ねずみたちは、お酒やさかなや、おいしいものを山のようにならべてごちそうしてくれました。それから、歌を歌いながら、踊りを踊って見せてくれました。

ねずみの浄土は 猫さえおらねば

ねずみの浄土は 猫さえおらねば

となりのおじいさんは、

「いつちよ、ねずみたちをおどろかせてやろう」と思って、

にゃーお

と、猫の鳴きまねをしました。そのとたん、ねずみたちは、

「そら、猫が来たぞ」とさけんで、みんなで、おじいさんにとりついて、顔やら頭やらに、所かまわずかみつきました。

おじいさんは血だらけになって、泣き泣き家に帰っていきました。人のまねをしてはいけないというお話です。

おしまい